

目指す学校像	『笑顔あふれる宮前小』
--------	-------------

重点目標	1 「真の学力」の育成…学校課題研修の充実 ICTを活用した学びの推進 2 豊かな心、健やかな体づくり…あいさつの励行 事故防止に努め、安心・安全な教育環境の整備 3 地域とともにある学校づくり…家庭・地域と絆を深める学校づくりの推進 情報発信の充実 4 教職員の資質向上…高学年教科担任制の実施 校内研修の充実
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標							実施日令和6年2月8日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<現状> ①R4 全国学調及び市学調「国語・算数の勉強は好きだ。」の質問項目において、R3と比較し肯定的な回答の割合は国語で全国・市ともに増加、算数は全国でほぼ同じ、市では減少した。 ②R4 学校自己評価「日々の授業における「宮前スタイル」の実践」の質問項目において、94%の教職員が肯定的な回答をした。 ③R4 学校自己評価「タブレット型端末の活用」に関する質問項目において、教職員の97%、児童の95%、保護者の86%が肯定的な回答をした。 <課題> ○今年度に予定されている研究発表会に向けて、「宮前スタイル」を発展させていく。 ○タブレット型端末の持ち帰りの頻度を増やし、家庭におけるデジタル教材を活用した学習を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> 学校課題研修の充実と「宮前スタイル」の発展 学びの自律化に向けたタブレット型端末の活用とデジタル教材の積極的活用 	<ul style="list-style-type: none"> 個別最適な学び(指導の個別化)を充実させ、児童に「できた」という実感をもたせる。 主体的、対話的で深い学びを取り入れた授業改善に学校全体で取り組む。 校内研修を通じて、個の学習状況を正確に把握できるスキルの向上を図る。 個の状況に応じ、ドリルやドリルパーク、個別の補習等の実践を行う。 	①R5 全国学調及び市学調「国語・算数の勉強は好きだ。」の質問項目において、肯定的な回答の割合をR4の値より向上させることができたか。 ②各教科における「宮前スタイル」を全教職員が日々の授業で実践できたか。	① 全国学調国語は R4 年度 68.1、R5 年度 73.3 で 5.2pt 増加、算数は R4 年度 62.2、R5 年度 61.4 で 0.8pt 減少した。市学調国語は R4 年度 75.1、R5 年度 78.7 で 3.7pt 増加、算数は R4 年度 60.1pt、R5 年度 69.1pt で 8.9pt 増加した。 ② 「宮前スタイル」が定着した。各教科において研究を進めて授業実践、研究発表会を行うことができた。	A	<ul style="list-style-type: none"> 個別最適な学びからさらに協働的な学びにつながる主体的・対話的で深い学びを意識した研究をすすめて、授業改善を行う。 学校課題研修を通して「宮前スタイル」が教職員に定着してきた。さらに改善して内容を共有するとともに、授業実践並びに教職員間での参観、協議を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力については、学校課題研修「宮前スタイル」の定着とICT「タブレット」の活用である。研修の結果指導力が上がり研究発表会での発表ができており、授業がよくなっているのであればAとしてよいと考える。 タブレットが活用されており、学習効果があったと思われるので、Aとしてよいと考える。
2	<現状> ①R4 学校自己評価「あいさつの励行」に関する質問項目において、肯定的な回答の割合は、R3と比較し教職員・児童はほぼ同じ、保護者は増加、地域の方は減少した。 ②R4 学校自己評価「安心・安全」に関する質問項目において、肯定的な回答をした児童の割合はR3と比較し20%以上増加した。 <課題> ○特活部を中心に、地域と連携してのあいさつ運動に取り組んでいく。 ○安全指導の充実・徹底を図り、児童に「自分の身は自分で守る」意識をもたせるとともに、保護者、地域と連携しての見守り活動の一層の強化に取り組んでいく。	<ul style="list-style-type: none"> 地域と連携した気持ちのよいあいさつの励行 児童の安全を守る登校指導と安全点検等の改善 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年・学級におけるあいさつの励行に努める。 あいさつキャンペーンや集会など、特別活動の充実を図る。 地域と連携してのあいさつ運動を各学期1回以上実施する。 月1回の安全点検・登校指導について、実施方法や点検項目の見直しを図る。 引き渡し訓練、一斉下校等の実施について、効果検証及び改善に向けた取組の充実を図る。 	①R5 学校自己評価「あいさつができる」の質問に肯定的な回答をする児童・保護者・教職員・地域の方々の割合がR4より増えたか。 ②地域と連携してのあいさつ運動を各学期1回以上実施できたか。	① R4 児童 83.2 保護者 86.4 教職員 87.9 地域 83.4 R5 児童 83.9 保護者 84.4 教職員 95.6 地域 92.3 であり、8割以上の肯定的回答を得ることができた。 ② あいさつ運動は、交通安全キャンペーンや児童会のあいさつキャンペーン、近隣中学校によるあいさつ運動などを通して行うことができた。	A	<ul style="list-style-type: none"> あいさつは本校の最重要課題である。引き続き、特別活動部を中心に、継続してあいさつの励行に取り組むものとする。 児童一人ひとりがあいさつを意識し、保護者や地域の方とともに取り組める交通安全キャンペーン、あいさつキャンペーンの取り組みを継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつは、児童のポイントが増えており、保護者は減であるが8割を超えている。達成度はAでよいと考える。 教職員が安心・安全に関して100%になりアピールできるようになった。教職員の意識が高くなっている。
3	<現状> ①R4 学校自己評価「学校での児童の様子を伝えていく」の質問項目において、保護者・地域の方々の92%が肯定的な回答をした。 ②学校 HP「宮ちゃん・前ちゃんのプログ」において、学校の教育活動を掲載している。 ③R4 市学調「地域とのかかわり等」に肯定的な回答をした児童の割合はR4と比較し増加した。 ④R4 学校自己評価「PTA や地域の行事等に関わっている」の質問項目において、教職員の100%が肯定的な回答をした。 <課題> ○学校の取組や児童の活動を保護者・地域の方々に積極的に周知していく。 ○PTA や地域の行事により多くの教職員が参加できるよう、体制を整えていく。	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会において、目指す児童の姿や地域との連携の充実について共有 PTA・地域の行事への積極的参画 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会開催の際に、可能な範囲で、学校内を見ていただく機会を設ける。 学校での活動がわかるよう日々の教育活動を学校HPに掲載する。 各自治会との連携をとり、地域の行事について、可能な範囲で児童・保護者に周知を図り、参加を促す。 PTA 主催の催しについては、今年度に即した活動になるよう協議し、実施できる機会を昨年度より増やす。 	①R5 学校自己評価における「児童の成長に関心が高まった」の質問に肯定的な回答する保護者・地域の方々の割合が8割以上となったか。 ③ 学校 HP の更新を週に3回以上できたか。	① R4 児童 91.3 保護者 94.7 教職員 100.0 R5 児童 89.8 保護者 96.1 教職員 100.0 児童 1.5pt 減、保護者 1.4pt 増、教職員 ±0pt となっている。肯定的割合は8割以上となった。 ② 学校 HP の宮前小学校プログはほぼ毎日掲載しており、162回の更新することができた。	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観や学校公開、学校だより、学校HPを通して、保護者や地域の方に、学校の教育活動に関心をもっていただくことができた。 学校HPの更新では、最新の情報を発信して、児童の学習活動や学校の行事等の様子を伝えられるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観を通して教育活動の様子がよくわかった。 地域の行事への参加はもっとしていると思われるが、アンケート項目の、質問の仕方がこどもにとって分かりにくくて答えていない場合があるのではないかと。 自分の住んでいるところにもっと興味をもっていけるようになるとうい。
4	<現状> ①R4 学校自己評価「教育課程・学習指導」における教職員の肯定的な回答は、いずれも9割以上に達している。 ②R4 学校自己評価「高学年教科担任制は、年間を通して円滑に実施されている」の質問項目において、97%の教職員が肯定的な回答をした。 <課題> ○体育・体力向上部を中心に、年間を通して計画的に体力向上の取組を実施していく。 ○高学年教科担任制のさらなる充実に向けて教職員の指導力向上に関する取組を強化していく。	<ul style="list-style-type: none"> 教員の指導力と専門性を高める校内研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 高学年教科担任制の成果・課題について集約し、進める過程で発生する課題について随時、検討・対応する。 教職員の指導力と専門性を高めるため、校内パワーアップ講座を実施する。 	①R5 学校自己評価における「教育課程・学習指導」の質問項目において、肯定的な回答をする教職員の割合がR4より増えたか。 ②年間を通して高学年教科担任制を円滑に実施できたか。	① R4 児童 91.3 保護者 94.7 教職員 100.0 R5 児童 89.8 保護者 96.1 教職員 100.0 児童 1.5pt 減、保護者 1.4pt 増、教職員 ±0pt となっている。児童、保護者ともに8割の肯定的割合であり、教職員の100%が肯定的な回答をした。 ② 年間を通して高学年に9教科担任制を実施し、効果的な授業実践を行った。	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価の教育課程・学習指導における「健やかな体をはぐくむ教育の推進」では、教職員の肯定的回答が高く、年間を通して計画的に体育、体力向上部を中心にさらに体力向上を目指していく。 高学年の9教科担任制の充実に向けて、教職員のさらなる指導力向上を目指して取り組むようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いた学習の様子から、達成度Aでよいと思われる。 年間を通して計画的に、さらに意図的・計画的・継続的な取組を行い、体力向上を目指していく。